【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成21年11月12日(2009.11.12)

【公表番号】特表2006-515195(P2006-515195A)
【公表日】平成18年5月25日(2006.5.25)
【年通号数】公開・登録公報2006-020
【出願番号】特願2004-571203(P2004-571203)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　17/34　　(2006.01)
Ａ６１Ｌ　31/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　17/34
Ａ６１Ｌ　31/00　　Ｂ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成21年9月17日(2009.9.17)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
血管や尿管のような人体の内側の管状構造の壁に固定するのに適した外科用ねじ器具であって、前記ねじ器具は巻きを備えた中空ねじからなり、外科用ねじ器具において、前記ねじ器具はさらに切れない穿孔手段を有し、該穿孔手段は、中空ねじに固定され又は取外し可能に取り付けられ、ねじ込みによる中空ねじの巻きの通過が可能なように前記管状構造の壁を穿孔することを特徴とする外科用ねじ器具。
【請求項２】
前記穿孔手段は、中空ねじの巻きの前端部により形成され、該巻きの前端部は尖鋭で丸い断面の端部を有することを特徴とする請求項１に記載の外科用ねじ器具。
【請求項３】
前記尖鋭で丸い断面の端部は、内方に曲げられ、かつ他の巻きに対して１０から２０度の角度で下方に曲げられていることを特徴とする請求項２に記載の外科用ねじ器具。
【請求項４】
前記尖鋭で丸い断面の端部は、他の巻きに対して９０度の角度で下方に曲げられていることを特徴とする請求項２に記載の外科用ねじ器具。
【請求項５】
前記ねじ器具は、さらに前記中空ねじに固定される中空管をさらに有することを特徴とする請求項１から４のいずれかに記載の外科用ねじ器具。
【請求項６】
前記中空管は、前記ねじ器具に針又はカテーテルを固定する手段を備えていることを特徴とする請求項５に記載の外科用ねじ器具。
【請求項７】
前記中空管は、血液凝固又は止血物質で満たされていることを特徴とする請求項５又は６に記載の外科用ねじ器具。
【請求項８】
前記穿孔手段は、前記中空ねじに取外し可能に取り付けられた取外し可能なヘッドを有することを特徴とする請求項１に記載の外科用ねじ器具。

【請求項９】
前記取外し可能なヘッドは、巻きを有し、各巻きは、前記管状構造の壁の孔を広げるために、前の巻きよりも広いことを特徴とする請求項８に記載の外科用ねじ器具。
【請求項１０】
前記中空ねじは、巻きを有し、各巻きは、前記ヘッドにより形成された前記管状構造の壁の孔を広げるために、前の巻きよりも広いことを特徴とする請求項８又は９に記載の外科用ねじ器具。
【請求項１１】
前記取外し可能なヘッドは、反時計回りの巻きによって前記中空ねじに取り付けられていることを特徴とする請求項８から１０のいずれかに記載の外科用ねじ器具。
【請求項１２】
前記ねじ器具は、非酸化材料、又はチタン、ニチノルのような超弾性材料、樹脂材料、再吸収可能な材料で形成されている請求項１から１１のいずれかに記載の外科用ねじ器具
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】発明の名称
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【発明の名称】固定ねじ器具
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００４】
本発明の固定ねじ器具（以下、ＡＳＤという。）は、管壁に容易にねじ込むことができ、カテーテルに最大の安定性と支持を与え、管に安全に挿入することができる。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００７】
１．　ＡＳＤは、－通常のねじのように－尖端ではないが、１つの完全螺旋巻き（３６０度）の端部を備えた中空ねじの形態である。巻きの端部は尖鋭で丸い断面の、すなわち切れない（non-cutting）ものであるが、ねじ込んだ中空管状構造の壁を穿孔することができる。尖鋭（sharp）で丸い断面の尖端は、内方に曲げられ、１０から２０°（α）の角度で下方に曲げられている（図１ａ参照）。代案として、この尖鋭で丸い断面の切れない尖端は、９０°（α）の角度で下方に曲げられてもよい（図１ｂ参照）。この場合、端部はコルク抜きのようであるが、先端は最終巻きの中央に位置しているのではなく周囲に位置している。
【誤訳訂正５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１０】
取り外し可能なヘッドは、２巻きと、コルク抜きの形態の端部とからなる（図３ａ、３ｂ）。この端部もまた、丸い断面の尖鋭な切れない先端である。ヘッドはアプリケータを備え、一体的に形成されている。ヘッドが適所（管壁の中央）に配置されると（図３ｃ参

照）、管壁内に残留するＡＳＤの残り部分から、アプリケータとともに取り除かれる。